
シンセサイザーをテーマに 電子音楽協会が定演

国内の作曲家や研究者らが加盟する「日本電子音楽協会」の定期演奏会が10日午後6時半から、名古屋・栄の愛知県芸術劇場小ホールである。楽器の音を素材としない電子音楽は1950年代初頭の旧西ドイツに起源を持ち、演奏会ではその後の普及に貢献した装置「シンセサイザー」をテーマにした最新の会員作品を紹介する。

名古屋学芸大准教授の鈴

木悦久、愛知県立芸術大准教授の安野太郎、静岡文化芸術大講師の佐藤亜矢子らの作品を取り上げる。協会は名古屋音楽大特任教授の水野みか子が会長を務め、日本の電子音楽のアーカイブ構築を進めている。午後5時15分から、アーカイブについての研究報告などのシンポジウムもある。3千円。㊟協会事務局＝メール info-jsem@jsem.sakura.ne.jp (南拡大朗)